

ノート

三重県性感染症 4 疾患全数把握調査 —2007 年度と 2008 年度調査結果の比較—

高橋裕明, 山内昭則, 福田美和, 松村義晴, 大熊和行

All Case Number Surveillance of the Four Sexually Transmitted Diseases in Mie Prefecture

—Comparison of Results of the Surveillance in 2007 and 2008 Fiscal Year—

Hiroaki TAKAHASHI, Akinori YAMAUCHI, Miwa FUKUTA,
Yoshiharu MATSUMURA, and Kazuyuki OHKUMA

三重県では、実態と乖離しているとの指摘がある現在の定点による性感染症 4 疾患サーベイランスを見直すため、2007 年度から 3 年間の計画で、三重県内の産科、婦人科、産婦人科、泌尿器科、皮膚科、性病科を標榜する 338 医療機関に協力を依頼し、性感染症 4 疾患患者全数把握調査を実施している。2007 年度に患者報告があったのは 107 機関から 3,467 人、2008 年度は 87 機関から 2,830 人であった。2007 年度と比較して 2008 年度は、泌尿器科からの男性の性器クラミジア感染症および淋菌感染症の減少が顕著であったが、産婦人科からの性器クラミジア感染症は男女とも大きな減少はみられなかった。また、2 年間に亘って恒常的に 25 人以上の患者報告があった医療機関に制限した集計では、女性の性器クラミジア感染症は逆に増加が認められるなど、全国で示されている傾向と異なり、実態の把握には、より詳細な分析の必要性が示唆された。

なお、今後は、本来の目的である感染予防・まん延防止を考慮し、無症状病原体保有者の把握も視野に入れた性感染症サーベイランスを検討すべきと考えられた。

キーワード：性感染症 4 疾患，全数把握調査，感染症サーベイランス

はじめに

性感染症 4 疾患（性器クラミジア感染症，性器ヘルペス感染症，尖圭コンジローマ，淋菌感染症）の流行状況は，感染症法に基づくサーベイランスにより三重県では 15 機関，全国では 920 機関の指定届出医療機関からの月報により把握されているが，三重県での患者届出数は全国平均の 1/2～1/5 程度で，地域（保健所管内）間格差も大きく，医療現場での認識と大幅に乖離していると言われている。このため，県内の患者発生状況を正確に把握し，感染予防・まん延防止対策の推進に資することを目的として，感染症法に基づく現行の患者定点サーベイランスに加え，2007～2009 年度に患者全数サーベイランスを行っている。この調査結果に基づき，現行指定届出医療機関の地域偏在性および代表

性等を検証するとともに，学識経験者 11 人で構成する三重県感染症発生動向調査企画委員会の意見を聴いて，指定届出医療機関の見直しのための提言を行う予定である。本報告では，そのうち 2 年間の調査結果について，報告された患者数の比較を行ったので，その概要を報告する。

なお，本報告の一部は 2008 年度厚生労働研究費補助金「新興・再興感染症研究事業」による分担研究として報告した¹⁾。

方 法

三重県健康福祉部健康危機管理室，保健所との協働のもと，県医師会，県病院協会，関係学会の協力を得て，県内の産科，婦人科，産婦人科，泌尿器科，皮膚科，性病科を標榜する 338 医療機関に依頼し，性感染症 4 疾患患者全数把

握調査を実施する。

調査票は、1 症例ごとに性別、年齢、市町単位の居住地、国籍（日本国籍か外国籍か）がわかる様式とし、各医療機関で1月ごとに取りまとめた報告を保健所に送付、保健所では管内の医療機関から報告された情報を取りまとめ、当研究所に送付する。

当研究所は、各保健所から送付された情報を解析、三重県感染症発生動向調査企画委員会に提出し、同委員会の意見を聴いて定点見直しの検討を行うとともに、本調査の結果を性感染症予防、まん延防止対策に資する啓発活動等に活用することとして、調査を継続している。

結 果

1. 調査開始に際し協力を依頼した 338 医療機関のうち 221 機関から「患者の来院があれば報告する」との回答を得た。そのうち、2007 年度に報告があったのは 107 機関 3,467 人、2008 年度は 87 機関(81% : 2007 年度を 100 としたときの%表示、以下同様) 2,830 人(82%)であった(表 1)。
2. 患者報告数は、男性では 2007 年度は性器クラミジア感染症が 508 人、2008 年度 422 人(83%), 次いで淋菌感染症が 2007 年度 457 人、2008 年度 305 人(67%)の順に多く、女性では性器クラミジア感染症が 2007 年度 1,297 人、2008 年度 1,214 人(94%), 次いで性器ヘルペス感染症が 2007 年度 519 人、2008 年度 397 人

(76%)の順であった。他疾患と比較すると、2008 年度の女性の性器クラミジア感染症の報告数は小幅の減少に止まった。また、男女とも、2007 年度に比較し 2008 年度は、全体の報告の中で占める性器クラミジア感染症の割合が、やや高くなっている(表 1, 図 1~4)。

3. 主な診療科別患者報告数では、男性の泌尿器科からの性器クラミジア感染症が 2007 年度 340 人、2008 年度 305 人(85%)と報告機関数の変化に比較し、やや大きな減少を示したが、女性の産婦人科からの性器クラミジア感染症は、2007 年度 996 人、2008 年度 964 人(97%)と大きな差は認められなかった。男性の泌尿器科からの淋菌感染症は、2007 年度 352 人、2008 年度 221 人(63%)と、大きな減少を示した。なお、産婦人科では、性器クラミジア感染症をはじめとする男性患者の報告がみられた(表 2)。
4. 2 年間の報告規模別患者報告数および医療機関数を表 3 に示した。2 年間を通して継続的に 100 人以上の患者報告があったのは 7 機関、75~99 人は 6 機関、50~74 人は 8 機関、25~49 人は 15 機関であった。皮膚科からは 25 人以上あるいは、年間を通じての安定した報告は得られなかった(表 3)。
5. 2 年間に亘って恒常的に 25 人以上の患者報告をいただいた 36 の医療機関に制限し集計した性・年齢階級別患者報告数を表 4 に示した。性器クラミジア感染症は、男性では 2007

表 1 性・年齢階級別患者報告数および報告医療機関数(2007~2008 年度)

疾患名	性	年 度	年齢階級(歳)															合 計	患者数 対2007 年比率	報告医療 機関数	報告医療 機関数 対2007 年比率
			0 1 9	10 1 14	15 1 19	20 1 24	25 1 29	30 1 34	35 1 39	40 1 44	45 1 49	50 1 54	55 1 59	60 1 64	65 1 69	70 以上	不 明				
性器クラミジア 感染症	男	2007		1	35	110	119	86	52	50	22	12	15	4		1	1	508	1	49	1
		2008			24	80	101	76	61	33	17	20	7	3				422	0.83	45	0.92
	女	2007		1	191	391	287	211	102	60	26	14	6	2			6	1297	1	65	1
		2008		3	175	355	274	211	124	37	22	9	3				1	1214	0.94	57	0.88
性器ヘルペス 感染症	男	2007		1	1	4	13	12	14	23	7	2	10	6	1	4		98	1	31	1
		2008			1	7	10	10	16	6	2	2	6	2	2	5		69	0.70	22	0.71
	女	2007			20	84	64	66	64	48	47	37	38	12	14	24	1	519	1	58	1
		2008	1		17	55	59	55	58	37	27	34	18	12	8	16		397	0.76	41	0.71
尖圭コンジローマ	男	2007			12	14	36	24	32	20	14	9	6	3			2	174	1	35	1
		2008			4	14	22	24	20	17	13	10	2	2	1	2		131	0.75	24	0.69
	女	2007			20	55	34	26	18	9	8	4	2	3		1		180	1	48	1
		2008	1		8	30	26	21	12	10	7	5	2	3				125	0.69	34	0.71
淋菌感染症	男	2007			24	94	94	86	74	28	23	14	13	5	1		1	457	1	43	1
		2008			18	65	67	49	34	31	17	11	8	3	2			305	0.67	34	0.79
	女	2007		1	19	24	26	16	6	5	2	1	3	1				104	1	33	1
		2008	1	1	6	25	11	8	6	2	1	1	3					65	0.63	20	0.61
混合感染症	男	2007			9	21	15	14	6	10	3	2	1	2	1			84	1	22	1
		2008			2	15	12	5	13	11	3		1					63	0.75	23	1.05
	女	2007			13	11	10	6	4								2	46	1	23	1
		2008			14	12	6	1	4	1	1							39	0.85	22	0.96
計	男	2007	0	2	81	243	277	222	178	131	69	39	45	20	3	7	4	1321	1	69	1
		2008	0	0	49	181	212	164	144	98	52	43	24	10	6	7	0	990	0.75	56	0.81
	女	2007	0	2	263	565	421	325	194	122	83	56	49	18	14	25	9	2146	1	83	1
		2008	3	4	220	477	376	296	204	87	58	49	26	15	8	16	1	1840	0.86	67	0.81
合計		2007																3467	1	107	1
		2008																2830	0.82	87	0.81

年度 401 人, 2008 年度 349 人(87%)と, 報告機関数が増えたにもかかわらず患者数の減少が見られたが, 女性では 2007 年度 900 人, 2008 年度 970 人(108%)と, 逆に報告数の増加が認められた. 特に, 20 歳代後半から 30 歳代後半にかけての増加が顕著であった. 男性の淋菌感染症

については, 2007 年度 308 人, 2008 年度 217 人(70%)と, 顕著な減少が見られた. なお, この 36 機関で 2007 年度の 66% (2302 人/3467 人), 2008 年度の 77% (2175 人/2830 人) の報告が得られた (表 4).

表 2 主な診療科別患者報告数および報告医療機関数 (2007~2008 年度)

疾患名	性別	年度	主な診療科 (上段: 患者数、 下段 () 内: 報告医療機関数)					合計
			泌尿器科	産婦人科	皮膚科	総合病院	その他	
性器クラミジア感染症	男	2007	340 (17)	77 (12)	4 (2)	82 (17)	5 (1)	508 (49)
		2008	288 (16)	74 (12)	2 (1)	53 (14)	5 (2)	422 (45)
	女	2007	8 (4)	996 (40)	2 (2)	290 (18)	1 (1)	1297 (65)
		2008	7 (3)	964 (34)	1 (1)	241 (18)	1 (1)	1214 (57)
性器ヘルペス感染症	男	2007	59 (11)	8 (3)	17 (6)	12 (9)	2 (2)	98 (31)
		2008	47 (10)	2 (1)	9 (4)	8 (6)	3 (1)	69 (22)
	女	2007	2 (2)	426 (35)	18 (6)	72 (14)	1 (1)	519 (58)
		2008	2 (1)	345 (29)	6 (2)	44 (9)		397 (41)
尖圭コンジローマ	男	2007	97 (12)	1 (1)	33 (12)	43 (10)		174 (35)
		2008	74 (10)		21 (4)	36 (10)		131 (24)
	女	2007	3 (3)	109 (27)	14 (5)	54 (13)		180 (48)
		2008		93 (23)	9 (3)	23 (8)		125 (34)
淋菌感染症	男	2007	352 (18)	5 (4)	11 (3)	81 (17)	8 (1)	457 (43)
		2008	221 (15)	1 (1)	5 (3)	74 (14)	4 (1)	305 (34)
	女	2007	2 (2)	92 (23)		10 (8)		104 (33)
		2008		58 (14)		7 (6)		65 (20)
混合感染	男	2007	69 (15)	1 (1)		14 (6)		84 (22)
		2008	48 (11)		2 (2)	13 (10)		63 (23)
	女	2007	2 (2)	35 (16)		9 (5)		46 (23)
		2008	2 (2)	36 (19)		1 (1)		39 (22)
合計	男	2007	917 (18)	92 (13)	65 (15)	232 (21)	15 (2)	1321 (69)
		2008	678 (16)	77 (12)	39 (7)	184 (19)	12 (2)	990 (56)
	女	2007	17 (8)	1658 (42)	34 (9)	435 (22)	2 (2)	2146 (83)
		2008	11 (5)	1496 (36)	16 (5)	316 (20)	1 (1)	1840 (67)

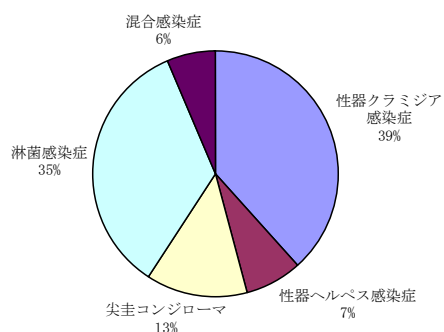


図1. 性感染症疾患別報告割合 (2007年度：男)

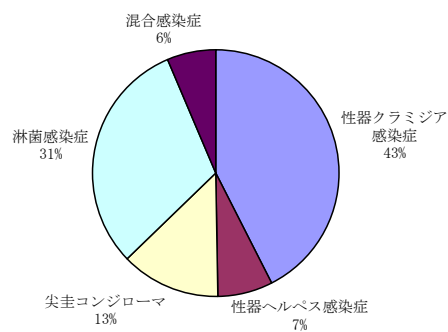


図2. 性感染症疾患別報告割合 (2008年度：男)

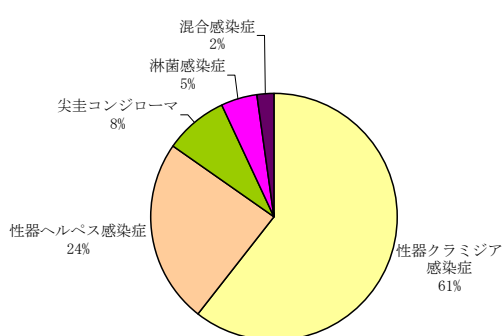


図3. 性感染症疾患別報告割合 (2007年度：女)

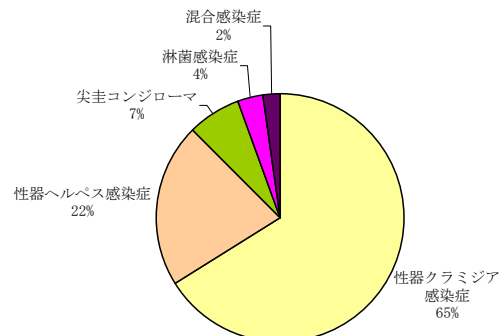


図4. 性感染症疾患別報告割合 (2008年度：女)

表3 報告規模別患者報告数および報告医療機関数 (2007～2008 年度)

患者報告規模 (2年度平均)	年度 (機関数)	主な診療科 (上段：患者数、下段 () 内：報告医療機関数)					合計
		泌尿器科	産婦人科	皮膚科	総合病院	その他	
100人～	2007	361 (3)	502 (4)				863 (7)
	2008	274 (3)	546 (4)				820 (7)
75～99人	2007	79 (1)	427 (5)				506 (6)
	2008	59 (1)	377 (5)				436 (6)
50～74人	2007	200 (3)	132 (2)		170 (3)		502 (8)
	2008	136 (3)	138 (2)		169 (3)		443 (8)
25～49人	2007	86 (3)	229 (9)		116 (3)		431 (15)
	2008	101 (3)	266 (9)		109 (3)		476 (15)
～24人	2007	208 (8)	460 (22)	99 (18)	381 (20)	17 (3)	1165 (71)
	2008	119 (6)	246 (16)	55 (9)	222 (17)	13 (3)	655 (51)
全機関	2007	934 (18)	1750 (42)	99 (18)	667 (26)	17 (3)	3467 (107)
	2008	689 (16)	1573 (36)	55 (9)	500 (23)	13 (3)	2830 (87)
合計		1623 (18)	3323 (46)	154 (18)	1167 (27)	30 (4)	6297 (113)

注1) 患者報告規模25人以上の機関は、2007年度と2008年度で同一機関である。

注2) 25人未満で計上した機関には、年間報告が10回 (10カ月) 以下および年度途中から報告がなくなった機関を含む。

表 4 年間報告数 25 人以上の医療機関における性・年齢階級別患者報告数等（2007～2008 年度）

疾患名	性	年 度	年齢階級（歳）															合 計	患者数 対2007 年比率	報告医療 機関数	報告医療 機関数 対2007 年比率
			0 1 9	10 14	15 19	20 24	25 29	30 34	35 39	40 44	45 49	50 54	55 59	60 64	65 69	70 以上	不 明				
性器クラミジア 感染症	男	2007		1	25	89	95	67	41	38	18	11	12	3		1		401	1	24	1
		2008			19	69	87	65	49	22	14	15	6	3				349	0.87	27	1.13
	女	2007			145	272	212	145	62	39	14	5	5				1	900	1	28	1
		2008		1	138	268	232	180	98	30	15	8						970	1.08	28	1.00
性器ヘルペス 感染症	男	2007			1	2	9	5	4	10	3	1	7	1		1		44	1	12	1
		2008			1	4	6	5	10	6	1	1	1	2		2		39	0.89	10	0.83
	女	2007			16	51	35	37	37	25	25	17	27	3	4	10		287	1	24	1
		2008	1		15	41	48	42	44	19	21	21	15	7	4	10		288	1.00	23	0.96
尖圭コンジローマ	男	2007			10	23	13	25	9	8	6	1	2			2	1	100	1	13	1
		2008			3	10	16	17	19	12	10	1		1	1	2		92	0.92	12	0.92
	女	2007			13	33	21	17	6	3			1			1		95	1	20	1
		2008			7	24	23	15	6	4	2	2	2	2				87	0.92	19	0.95
淋菌感染症	男	2007			18	61	67	59	45	17	17	11	8	5				308	1	19	1
		2008			9	52	48	36	20	25	13	4	7	2	1			217	0.70	17	0.89
	女	2007		1	10	20	21	14	6	2	1	1	2	1				79	1	20	1
		2008	1	1	6	21	10	7	5	1		1	3					56	0.71	14	0.70
混合感染症	男	2007			9	14	12	9	4	8	3	2	1	2	1			65	1	13	1
		2008				13	7	3	11	9	2		1		1			47	0.72	13	1.00
	女	2007			9	8	4	1	1									23	1	13	1
		2008			8	10	5	1	4	1	1							30	1.30	16	1.23
計	男	2007	0	1	53	176	206	153	119	82	49	31	29	13	1	4	1	918	1	24	1
		2008	0	0	32	148	164	126	109	74	40	21	15	8	3	4	0	744	0.81	27	1.13
	女	2007	0	1	193	384	293	214	112	69	40	23	35	4	4	11	1	1384	1	31	1
		2008	2	2	174	364	318	245	157	55	39	32	20	9	4	10	0	1431	1.03	30	0.97
合計		2007																2302	1	36	1
		2008																2175	0.94	36	1.00

考 察

1. 調査開始から2年以上が経過し、報告に協力いただいている医療機関数が減少している。これに伴い、2007年度に比較して2008年度の患者報告数も減少しているが、継続的な協力が期待できる医療機関が明確になっており、これらの情報を整理することが新たな定点設定、ひいては三重県における有効な性感染症サーベイランス体制構築に繋がるものと考えられる。
2. 2007年度に比して2008年度の患者報告数が減少したのは、概して報告機関数の減少に相応したもののようであるが、性別、疾患別にみると様相を異にしており、男性の性器クラミジア感染症および淋菌感染症は報告機関数以上に患者報告数が減少していること、女性の性器クラミジア感染症は、報告機関数が減少しているものの患者数では顕著な減少傾向が認められなかったことなどから、より詳細な分析の必要性が示唆された。
3. 主な診療科別集計では、泌尿器科からの男性の性器クラミジア感染症および淋菌感染症の減少が顕著であったが、産婦人科からの性器クラミジア感染症の報告は男女とも大きな減少はなく、診療科によって異なる傾向があることに留意する必要がある。また、皮膚科からの報告が少数に止まっていることも定点

設定の上で考慮すべきである。なお、産婦人科における男性の性器クラミジア感染症をはじめとする患者報告は、接触者検診に積極的な医師の存在を示唆するものであった。

4. 2年間に亘って継続的に年間（平均）25人以上の患者報告のあった医療機関に制限した集計では、男性の性器クラミジア感染症および淋菌感染症の減少は認められたが、女性の性器クラミジア感染症は逆に増加しており、この女性の結果は「性器クラミジア感染症および淋菌感染症は減少傾向が続いている」との国の報告²⁾と異なる結果であった。
5. 今後の性感染症サーベイランスについては、その本来の目的である感染予防・まん延防止あるいは、加速する我が国の少子化傾向を考慮すると、特に不妊症の原因³⁾となる性器クラミジア感染症や淋菌感染症について、無症状病原体保有者の把握も視野に入れたサーベイランスを検討すべきと考えられる。

まとめ

2年間の結果でも、今後の性感染症サーベイランス事業に有用と思われる知見が得られたが、本調査は2007年度から2009年度の3年間の事業であり、この3年間の結果を総合的に検討し、三重県におけるサーベイランス定点の見直し等を行う予定である。

文 献

- 1) 厚生労働省：厚生労働科学研究費補助金新興・再興感染症研究事業 効果的な感染症サーベイランスの評価並びに改良に関する研究 2008 年度総括・分担研究報告書, 149-174 (2009.3).
- 2) 国立感染症研究所：＜特集＞性感染症 2007 年現在, 病原微生物検出情報, Vol.29 No.9 (2008).
- 3) 三嶋廣繁, 高橋 聡, 野口昌良, 清田 浩：性感染症診断・治療ガイドライン 2008 第2部疾患別診断と治療 性器クラミジア感染症, 日本性感染症学会誌, Vol.19 No.1 Supplement 57-61 (2008).